

シンポジウム

COVID-19以後の モビリティ研究

2021年3月6日(土) 13:00-16:30

ZOOMウェビナー開催 講演において同時通訳あり

参加URL

https://intergroup.zoom.us/webinar/register/tJlkduqprD8rHdSZc6D80EIC4W6K6I_0qNM9/

13:00-13:10 開会挨拶

藤巻正己氏(立命館大学)



13:10-14:10 基調講演

ティム・エデンサー氏
(マンチェスター・
メトロポリタン大学)

14:30-16:30 シンポジウム

参加URL
QRコードは
こちら →



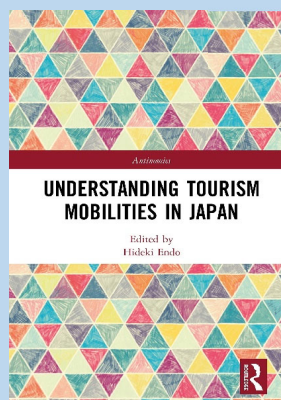
須藤廣氏(法政大学)
神田孝治氏(立命館大学)
山口誠氏(獨協大学)
安田慎氏(高崎経済大学)
遠藤英樹(立命館大学) (兼: コーディネーター)

主催: 立命館大学人文科学研究所 重点研究プログラム「グローバル化とアジアの地域」

共催: ・立命館大学研究高度化推進施策『With コロナ社会 提案公募研究プログラム
—Visionaries for the New Normal—』「COVID-19以後のツーリズム・モビリティ
の課題と可能性」研究代表者: 遠藤英樹
・科学研究費基盤研究(C)「グローバルなアジア世界の共生を志向するポリフォニック・
ツーリズム(多声的観光)」(研究課題/領域番号: 20K12442) 研究代表者: 遠藤英樹

お問合せ: Tel 075-465-8225/E-mail jinbun@st.ritsumeai.ac.jp

COVID-19以後の モビリティ研究



シンポジウム概要

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大状況のもとで、移動（モビリティ）は止まってしまったかのようだ。たしかに国際線の旅客機数は激減し、海外からの観光客も街から姿を消してしまった。そうした中で「もはや移動（モビリティ）を論じることには何の意味もない。モビリティ研究は終焉を向かえたのだ」と思う人がいるかもしれない。しかし、そうした意見ほどの外れなものはない。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の状況において、新たな私たちの移動（モビリティ）がデジタルテクノロジーと結びつき現れ、それがローカルとグローバルの関係性を変容させ、私たちが見たこともない社会を生み出そうとしているのである。そういう今だからこそ、モビリティ研究は一層重要となるのだ。本シンポジウムでは「COVID-19以後のモビリティ研究」と題して以上のことを問う。

ティム・エデンサー氏略歴

ティム・エデンサー氏は、ジョン・アーリ氏の指導のもとランカスター大学でPhDを取得し、現在はマンチェスター・メトロポリタン大学教授として文化地理学の講義を担当している。ナショナル・アイデンティティ、観光、産業遺産、モビリティーズ、イルミネーションと暗闇の景観、情動といった多様な領域に関心をむけ研究を展開してきた。

著書として『Tourists at the Taj』（Routledge, 1998）、『National Identity, Popular Culture and Everyday Life』（Berg, 2002）、『Industrial Ruins: Space, Aesthetics and Materiality』（Berg, 2005）、『From Light to Dark: Daylight, Illumination and Gloom』（Minnesota, 2017）、編著として『Rethinking Darkness: Cultures, Histories, Practices』（Routledge, 2020）など多数の業績がある。

立命館大学人文科学研究所所長である遠藤英樹が編集した『Understanding Tourism Mobilities in Japan』（Routledge, 2020）でも分担執筆者として参加している。

主催：立命館大学人文科学研究所 重点研究プログラム「グローバル化とアジアの地域」

共催：・立命館大学研究高度化推進施策『With コロナ社会 提案公募研究プログラム—Visionaries for the New Normal—』「COVID-19以後のツーリズム・モビリティの課題と可能性」研究代表者：遠藤英樹
・科学研究費基盤研究（C）「グローバルなアジア世界の共生を志向するポリフォニック・ツーリズム（多声的観光）」（研究課題／領域番号：20K12442）研究代表者：遠藤英樹

お問合せ：Tel 075-465-8225/E-mail jinbun@st.ritsumeai.ac.jp